

2013年12月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

➤景気判断を引き上げました

2013/5月	一部に持ち直しの動きがみられている
/7月	緩やかに持ち直しの動きが広がりつつある
/9月	緩やかに持ち直しの動きが広がっている
/10月	緩やかに持ち直している
/11月	持ち直している
/12月	着実に持ち直している ※4 か月連続で上方修正

■支出・生産・所得項目の変化点

➤個人消費、設備投資の判断を上方修正しました（その他項目は据え置きました）

項目	今回	従来
個人消費	回復に向けた動きが <u>一部で明確になっている</u> ※4 か月連続の上方修正	回復に向けた動きが <u>一部にみられ始めている</u>
設備投資	一段と増加している ※3 か月振りの上方修正	増加している

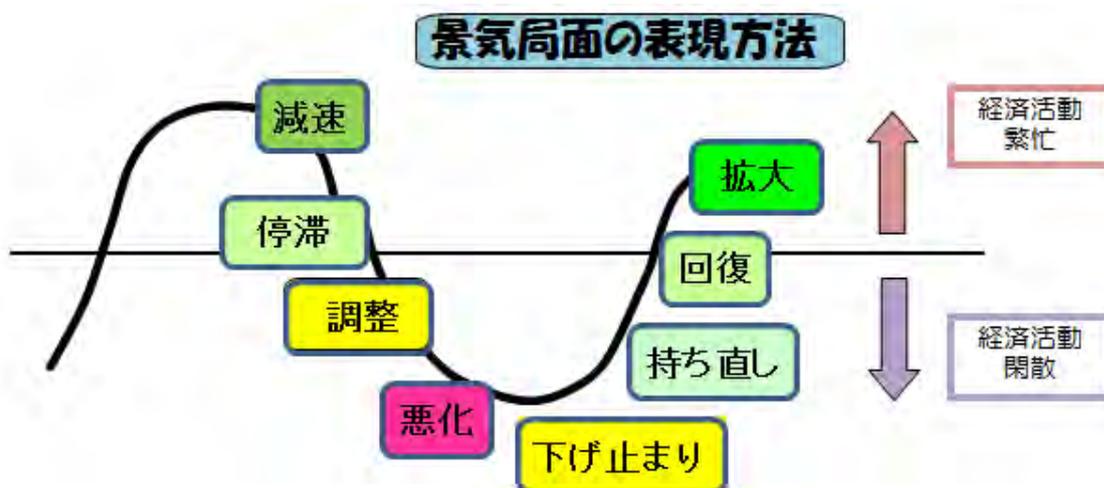
■基調判断を引き上げた理由

- 12月短観の業況判断DI（全産業）が、小幅ながらも更に改善したこと。
- 事業計画（12月短観）における売上、収益、設備投資のいずれもが上方修正されたこと（特に、設備投資については、企業の景況感や収益環境の改善基調が続く中で大幅上方修正となり、全体では前年比2.1倍に）。
- 個人消費については、一部（新車登録、観光）ながらも、回復感が強まっていること。

■今月のポイント

➤個人消費については、大型店売上高を含め、全体としてはまだ「持ち直し」の域を出ませんが（下図参照）、新車販売、観光で回復に向けた動きが明確になっていますので、今月はグラフを使って概要を説明します。

【参考】景気判断で使用する用語



①大型店売上高

➤個人消費の柱である大型店売上高は過去10年間ほぼ一貫して低下してきました（上図の「悪化」状態）。しかし、昨秋からの株価上昇による資産効果や家計のマインド改善で、今年の第2四半期（4～6月期）に前年比がプラスに転じ（同「下げ止まり」状態）、その後はプラス幅が緩やかに拡大するなど、徐々に持ち直している段階です。

▼大型店売上高前年比推移（既存店ベース）

07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年 1Q	2Q	3Q	10月
▲2.3	▲12.9	▲3.9	▲8.4	▲2.1	▲0.7	▲1.1	+0.5	+1.3	+0.6

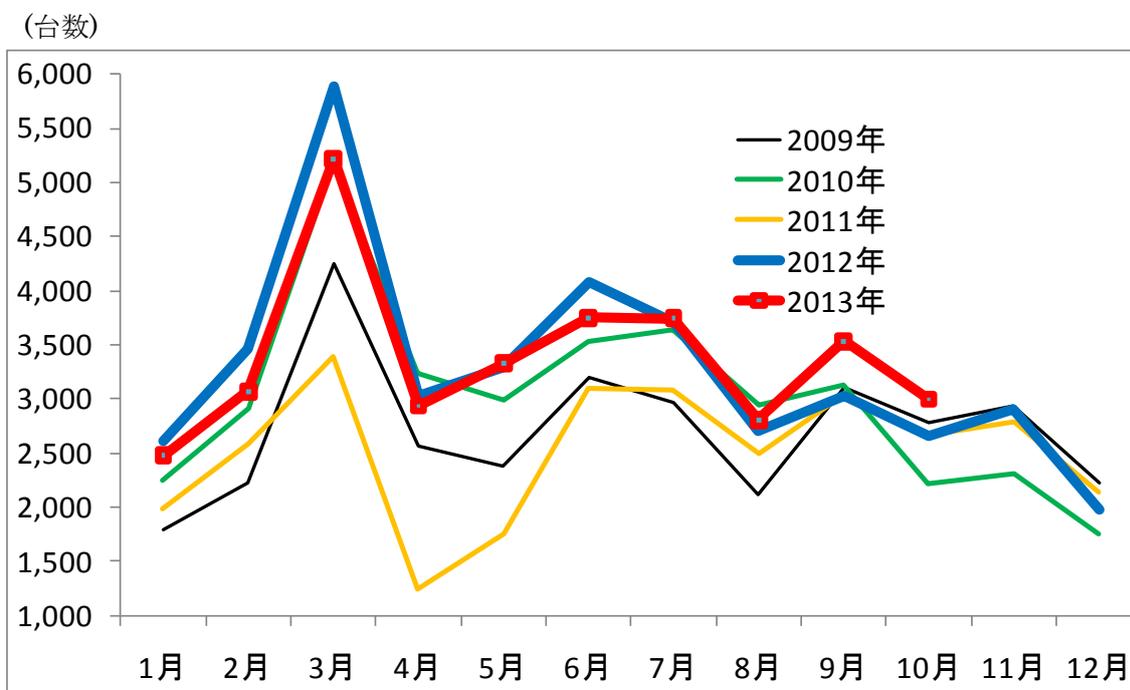
（注）1Q：1～3月期、2Q：4～6月期、3Q：7～9月期

②新車販売（登録台数）

➤新車登録台数は、例年、年度末に大きく販売を伸ばした後、その後は水準を切り下げ、秋・冬は低調となるパターンを繰り返します。こうした中、今年の新車登録状況をみると、新車投入効果や消費税増税駆け込み前の需要好調に支えられ、10月としては10年振りの高水準となりました。

—2013 年前半の登録台数は、エコカー補助金で需要好調であった
2012 年にはさすがに届かなかったものの、かなりの高水準を記録し
ました。

▼新車登録台数の推移



③観光需要

➤主要観光拠点の宿泊者数（前年比）についても、前年比が徐々に切り上が
っており、高水準となっています。

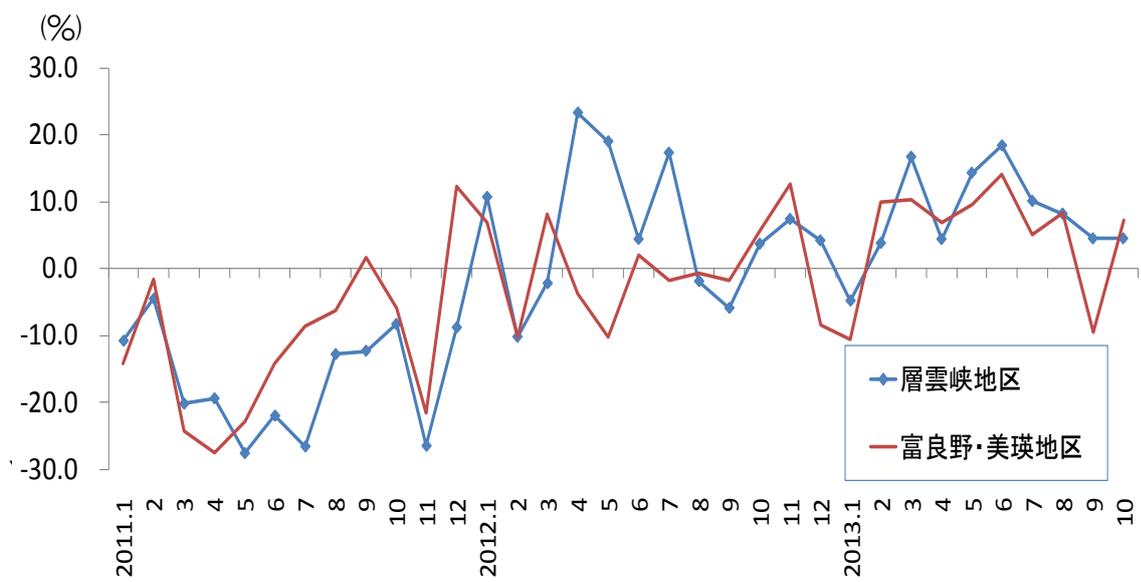
—層雲峡では2012年初以降、富良野・美瑛地区では2012年の秋以
降、前年を上回る状況が続いています。

—旭川地区のホテルの客室稼働率も大きく改善しています。

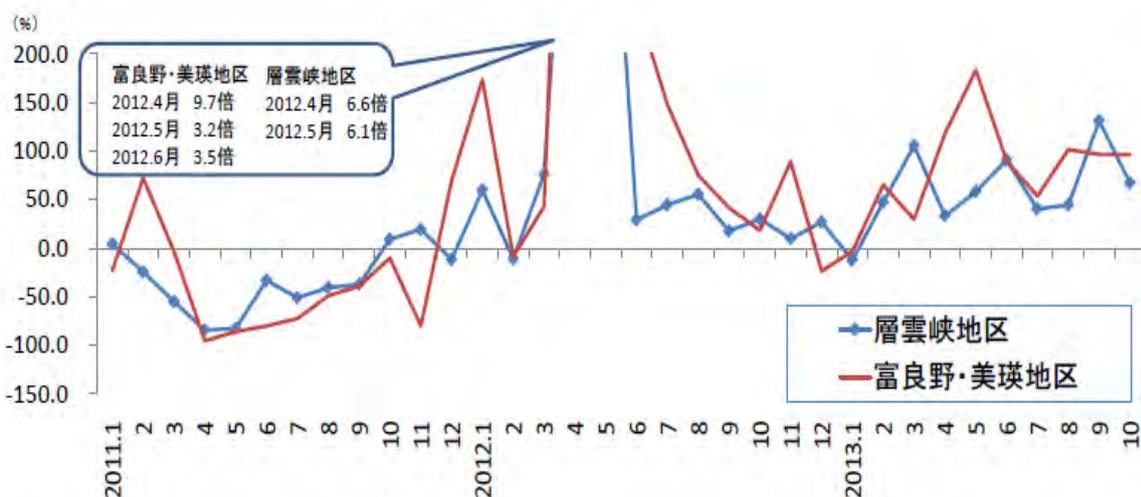
➤これは、台湾等、アジア各地の空港との直航便増加等により、外国人観光
客が大幅に増加していることによるものです。

—2012年3～4月の外国人宿泊者数の伸びが急増しているのは、その
前年が大幅減（東日本大震災による観光客急減）となった裏が出たた
めです。

▼主要観光拠点の宿泊者数の推移



▼主要観光拠点の外国人宿泊者数の推移



▼旭川地区の客室稼働率（前年同月比）の推移

